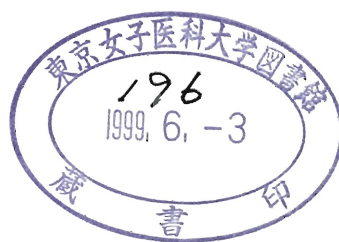


唾液分泌障害をきたす唾液腺疾患の免疫組織化学的  
並びに微細形態学的研究

研究課題番号 08671986

平成8年度～平成10年度科学研究費補助金（基盤研究(C)(2)）研究成果報告書



平成11年3月

研究代表者 吉原俊雄  
(東京女子医科大学医学部助教授)



## はじめに

唾液分泌は口腔内の湿潤を保つと共に言語を円滑にし、食物の咀嚼、嚥下や味覚にも密接に関与する。さらに分泌されるアミラーゼは炭水化物の消化にも重要である。口内乾燥症の病態は多彩であり、シェーグレン症候群の他、薬剤性の唾液分泌障害、口腔領域の放射線治療の副作用、加齢による腺実質の萎縮、唾液腺炎、唾液腺症、唾液腺腫瘍の一部が挙げられる。

本研究では口内乾燥を示すシェーグレン症候群、加齢による唾液腺萎縮症と非腫瘍性、非炎症性に腫脹を示す唾液腺症、さらに細胞内分泌顆粒が特徴である腺房細胞癌について臨床的検討と組織化学、光顕ならびに電顕的に検討した。シェーグレン症候群と加齢による唾液腺萎縮症では耳下腺組織の変化について腺実質、脂肪組織、導管、血管を組織学的に検討した後各々の関係についてコンピューターによる三次元構築を行った。シェーグレン症候群耳下腺でみられる筋上皮島は立体構築により筋上皮細胞の関与は少なく、連続した導管細胞の増殖より成ることが示された。一方、唾液腺症の耳下腺組織では腺房の増大が特徴であるが、細胞内分泌顆粒は正常耳下腺と異なり芯の存在しない一相性顆粒がほとんどであった。レクチンによる糖鎖の検討から唾液腺症の顆粒は正常顆粒辺縁部に類似していた。正常および唾液腺症耳下腺とも免疫組織学的に抗アミラーゼ抗体が陽性であることより唾液腺症では蛋白合成は存在するものの細胞質での二相性顆粒の形成障害が存在することが示された。

唾液腺のlow grade の悪性腫瘍である腺房細胞癌は正常腺房細胞に類似する細胞の増殖が特徴的である。腺房細胞癌の細胞内分泌顆粒は形態、組織化学的性状から成人耳下腺のそれより胎生20週以前の耳下腺分泌顆粒に類似していた。これより腺房細胞癌は未分化な細胞より腺房細胞への正常な分化を行えず腫瘍化したものか、あるいは腺房細胞の腫瘍化即ち脱分化により胎生期に類似した幼若な顆粒を形成したものと考えられた。

#### 研究組織

研究代表者 : 吉原俊雄 (東京女子医科大学医学部助教授)  
研究分担者 : 佐藤美知子 (東京女子医科大学医学部助手)  
(研究協力者 : 伊藤英美、阿保尚子)

#### 研究経費

平成8年度	1,000千円
平成9年度	700千円
平成10年度	500千円
計	2,200千円

## 研究発表

### (1) 学会誌等

- 1) 吉原俊雄、高齢者の流涎症、日本医事新報 3751:136-137、1996年
- 2) 吉原俊雄、Dumb-bell型、副咽頭間隙型耳下腺多形腺腫の切除、口腔咽頭科 8:193-201、1996年
- 3) 吉原俊雄、佐藤美知子、篠 昭男、耳下腺oncocytomaとmalignant oncocytoma (oncocytic carcinoma)の2症例、日本唾液腺学会誌 37:22-24、1996年
- 4) 森田 恵、吉原俊雄、ヒト耳下腺の加齢変化における組織学的ならびに三次元構築による検討、東京女子医科大学雑誌 66:393-401、1996年
- 5) 吉原俊雄、耳下腺多形腺腫の治療、ダンベル型の切除、JOHNS 13:73-78、1997年
- 6) 神田 敬、吉原俊雄、唾液腺分泌異常、JOHNS 13:401-403、1997年
- 7) 山村幸江、吉原俊雄、顎下腺唾石70例の臨床像ならびに病理組織学的検討、東京女子医科大学雑誌 67:808-814、1997年
- 8) 吉原俊雄、唾液腺炎-唾石症、臨床外科 52:62-64、1997年
- 9) Toshio Yoshihara, Michiko Sato, Yukie Yamamura, Yuji Yaku : An Ultrastructural study of oncocytoma and oncocytic carcinoma of the parotid gland. Medical Electronmicroscopy 30:31-36, 1997
- 10) 吉原俊雄、耳鼻咽喉科と加齢：唾液分泌障害、長寿科学研究エンサイクロペディア情報開発事業報告書 811-812、1997年
- 11) 吉原俊雄、小原孝夫、消化器外科 21:676-678、1998年

- 1 2) 吉原俊雄、小児耳下腺部腫脹を来す疾患、小児耳鼻咽喉科 19 : 56-58、1998年
- 1 3) 吉原俊雄、老年者の唾液分泌障害、老化と疾患 11 : 83-85、1998年
- 1 4) 吉原俊雄、山崎たくみ、荒井朱美子、夜久有滋、耳下腺未分化癌 (small cell carcinoma) の一例、日本唾液腺学会誌 39 : 25-26、1998年
- 1 5) 吉原俊雄、佐藤美知子、山村幸江、耳下腺腺房細胞癌および胎生耳下腺分泌顆粒の電顕組織化学的検討、日本唾液腺学会誌 39 : 74-76、1998年
- 1 6) 吉原俊雄、唾液腺腫瘍の超微構造、日本唾液腺学会誌 39 : 1-10、1998年
- 1 7) Toshio Yoshihara, Kiyomi Kawano, Naoko Mita:  
Retropharyngeal lipoma causing severe dysphasia and dyspnea.  
Journal of Otolaryngology 27: 363-366, 1998
- 1 8) Toshio Yoshihara, Saori Suzuki, Koichi Nagao:  
Mucoepidermoid carcinoma arising in the accessory parotid gland. International Journal of Pediatric Otorhinolaryngology in press.

(2) 口頭発表

- 1) 吉原俊雄、唾液腺疾患の臨床、日本耳鼻咽喉科学会山梨県地方部会研集会、1996年1月20日
- 2) 吉原俊雄、唾液腺疾患の形態からみた病態、第97回日本耳鼻咽喉科学会総会、1996年5月23日
- 3) 吉原俊雄、口内乾燥症例と耳下腺の加齢辺かにかんする検討、第9回日本口腔咽頭科学会、1996年、9月12日
- 4) 吉原俊雄、佐藤美知子、森田 恵、Carcinoma in pleomorphic adenomaの3症例、第41回日本唾液腺学会、1996年、12月7日
- 5) 田中雅代、竹本直子、篠 昭男、吉原俊雄、石井哲夫、Carcinoma in pleomorphic adenomaの4症例、第21回日本頭頸部腫瘍学会、1997年、6月19日
- 6) 吉原俊雄、佐藤美知子、夜久有滋、神田 敬、第29回日本臨床電子顕微鏡学会、1997ねん、10月2日
- 7) 吉原俊雄、山崎たくみ、荒井朱美子、夜久有滋、耳下腺未分化癌 (small cell carcinoma) の1例、第42回日本唾液腺学会、1997年、12月6日
- 8) 吉原俊雄、佐藤美知子、伊藤英美、耳下腺腺房細胞癌および胎生耳下腺分泌顆粒の電顕組織化学的検討、1997年、12月6日
- 9) 山村幸江、吉原俊雄、石井哲夫、当科における顎下腺唾石70症例の臨床的検討、第127回日本耳鼻咽喉科学会東京地方部会、1998年、7月11日
- 10) 荒井朱美子、吉原俊雄、石井哲夫、耳下腺腺房細胞癌及び胎生耳下腺分泌顆粒の組織学的検討、第11回日本口腔咽頭科学会、1998年9月19日

(3) 出版物

- 1) 吉原俊雄、TEXT耳鼻咽喉科、頭頸部外科学、南山堂、1997年
- 2) 吉原俊雄、口腔咽頭の臨床、医学書院、1998年
- 3) 吉原俊雄、耳鼻咽喉科頭頸部手術アトラス、医学書院、印刷中